

野の仏さまにおききしました

2023.2.27（月） N07

その3（完結編）



素晴らしい微笑の弥勒さん➡通りすぎないで二尊さん➡左のお顔が痛々しい阿弥陀さん
➡年齢 544 歳の磨崖阿弥陀三尊さん➡やって来ました岩倉阿弥陀三尊さん



岩倉阿弥陀三尊磨崖仏

歴史上の仏である釈迦牟尼仏と並んで、日本で最も多くの像が造られ、そして信仰の対象とされてきたのは、阿弥陀仏と観音菩薩とであろう。

この二尊に、勢至菩薩を加えて、阿弥陀三尊（または弥陀三尊）と呼ぶ。

二菩薩は、西方極楽浄土においては最も尊い菩薩であることから、常に教主たる阿弥陀の左右に侍っているわけであるが、どちらが右に来るかは、お経によっては必ずしも一定せず、両方の形の像が残っているが、普通は、「観無量寿経」にもとづいて、左側に観音菩薩、右側に勢至菩薩を安置して釈迦三尊の場合と同じ、観音菩薩は仏の衆生に対する慈悲を象徴し、勢至菩薩は、仏の悟りの智慧を象徴しており、もともとは三尊で悟り、そのものを表現したものである。

四季を通じて仏との出会い



この坂を登れば



見えました! 凄い、凄い



こけたり、われたりしませんか?



今のところ、大丈夫、ゆくゆくは

野の仏さまにお聞きしました・・・石仏の道を歩く心得

「巧言令色、鮮な^{すく}し^{じん}仁」…心にもないお世辞を言ったり、うわべだけの愛想笑いをする人は、ほんとうのおもいやりの心に欠けている。巧言とは、お世辞です。令色はつくり笑顔です。

どちらも心のこもっていない、うわべだけの言葉や表情のことです。

こういう人は、思いやりがなく誠実ではない、ということです。

「鮮なし仁」の「鮮」という字には新しい、鮮やか、という意味のほかにも、少ない、まれであるという意味もあります。孔子の生きた時代は、戦乱の世です。不正が横行し、人民のことを忘れて私利私欲に奔り、私腹を肥やす政治家や役人もたくさんいたようです(今の世も同じ?)。

どんな状況でも、巧言令色になってはいけません。大切なのは、飾り立てた言葉ではなくて、あたたかいハートなのです。どんなに美しい言葉を尽くしても、心のこもった笑顔や優しい心遣いにはかないません。

心にとめておきなさいと野の仏さんは孔子の章句をもっておっしゃいました。

==了==